

神明中学校の改築について



1. 改築に至る経緯

神明中学校の状況

昭和22年	開校(下荻中学校として桃井第二小学校内に開設)
昭和23年	神明中学校と校名改称。現在の校地に移る。
昭和34年	体育館建設
昭和36年	現校舎建設
昭和40年	プール建設
昭和53年	校庭側の鉄筋校舎建設
平成21年	校舎耐震補強工事

改築計画の具体化(区)

令和3年度	杉並区実行計画により改築事業の計画化、神明中CSに情報提供
令和4年度	「神明中学校改築検討懇談会」設置、基本設計策定



2. 神明中学校の概要

●生徒数・学級数の推計(令和4年度は4月の速報値)

年月日	生徒数	学級数
令和4年度	276	9
令和6年度	251	9
令和7年度	251	9
令和8年度	248	9

●施設規模等

敷地面積	校舎面積	運動場面積 (有効面積)	体育館面積	プール
8,226㎡	5,361㎡	3,692㎡	585㎡	25m × 11m

3. 「杉並区立学校施設整備計画」について

1 杉並区の学校施設の状況

- ・区立小中学校のうち、築50年以上の建物を有する学校は35校、全学校の55%。
- ・昭和50年代をピークに減少傾向にあった生徒数は、近年増加傾向にあるが、中長期的な視点で見ると人口減少が予測されており、今後の学校改築に当たっては、将来の生徒数の減少を見据えた柔軟性のある施設づくりが求められている。
- ・学びの場にとどまらず、地域コミュニティの核として学校施設を活用することが求められている。
- ・今後更新時期を迎える学校施設の老朽化に的確に対応するため、施設の長寿命化による有効活用と年度毎の平準化を図った改築の計画を令和3年3月に改訂。

2 学校施設の目指すべき姿

(杉並区立学校施設整備計画より)

(1) 将来を見据えた教育環境の確保

- ・安全・安心で、快適に過ごせる学習・生活空間の整備
- ・多様な教育に対応できる学習環境の整備
- ・地域の拠点となる開かれた学校づくり
- ・将来転用可能な柔軟性のある施設づくり
- ・環境に優しい施設づくり

(2) 学校施設の標準規模

- ・改築規模の見直しによる一定のスリム化への取り組み
- ・地域の核となる施設としての適切な施設規模の確保
- ・プールのあり方について多方面から検討

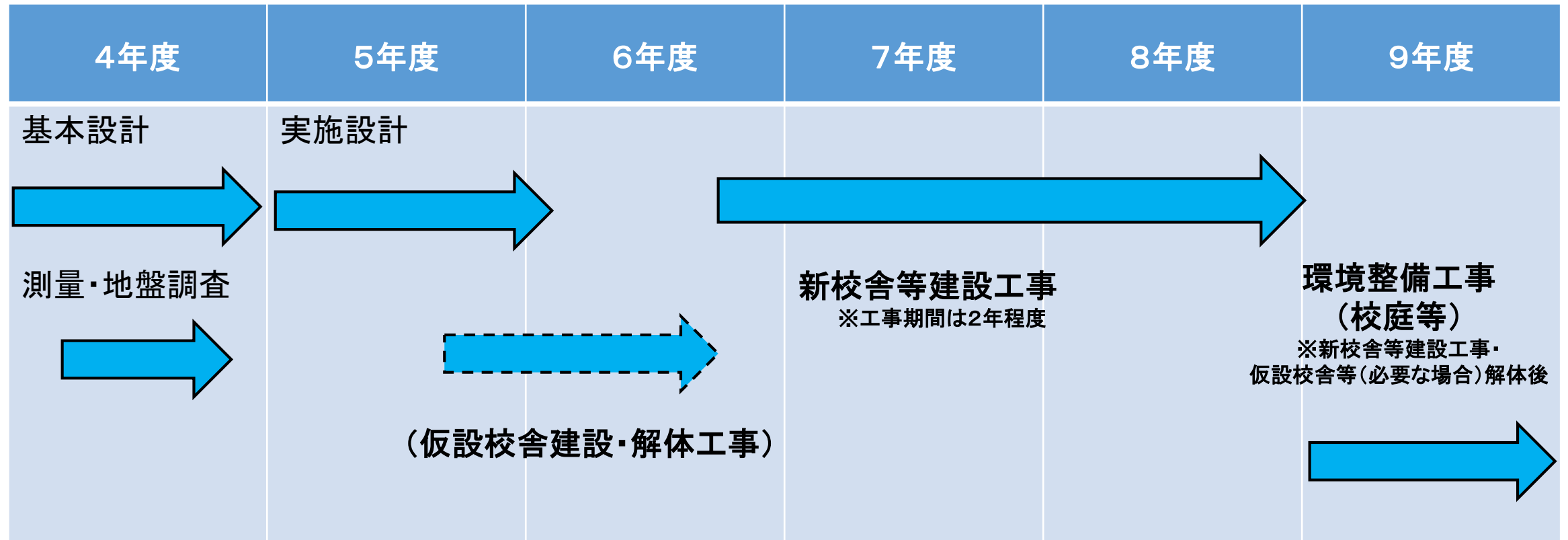
4. 改築検討における主な視点

- ・将来の生徒数の変化(ピーク想定)を見込んだ施設づくり
- ・さらなる防災機能の充実や地域に開かれた学校づくり
- ・杉並区では、学校施設の老朽化に伴い、令和4年度から年間約1～2校ペースでの改築が想定される。コスト面等を含む総合的な視点に立った施設づくり
- ・これまで築後概ね50～60年を改築時期としていたが、築80年を目指した長寿命化の考え方に基づく改築
- ・杉並区施設再編計画及び杉並区立学校施設整備計画にプールのあり方について、今後多方面から検討していく予定
- ・神明中学校は、校地が不整形で、第一種低層住居専用地域での建築基準では改築に制約あり
- ・懇談会等での保護者、学校関係者、地域住民等の意見を踏まえた検討

5. 懇談会の開催予定

回数	月	検討内容(案)
第1回	5月	神明中の改築について
第2回	6月	改築基本方針(案)
第3回	7月	施設見学
第4回	8月	改築基本方針、校舎配置(案)
第5回 第6回	9月・10月	校舎配置(案)、平面計画(案)
第7回	11月	平面計画のまとめ
	12月	検討状況について、保護者・地域説明会
第8回	2月	懇談会まとめ骨子について、工事工程案について
第9回	3月	懇談会まとめ案について
	3月	基本設計完成

6. 改築想定スケジュール



※この想定スケジュールは、これまでの改築校の一般的なスケジュールです。

敷地条件・校舎配置プラン・工事範囲等により、工事期間等は変更いたします。